

# 第112期 事業報告書

平成30年4月1日 ⇒ 平成31年3月31日  
(2018.4.1 ⇒ 2019.3.31)

## Contents

- P1 トップメッセージ・財務ハイライト
- P3 営業概況
- P4 連結財務諸表
- P6 財務諸表（ご参考）
- P7 トピックス
- P9 会社概要・株式状況





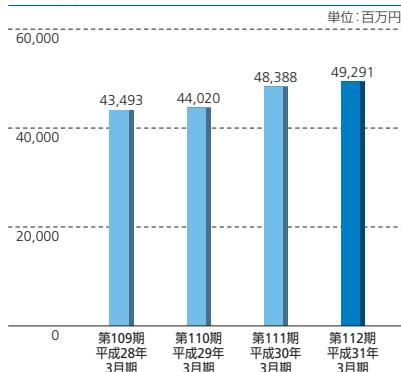
# 変化に対応した迅速な実行力こそが、 新たな創造を実現し、未来を切り拓く。

日本金属グループは、急速に進化する市場の変化を捉え、  
適確な判断と迅速な行動で、新しい価値の創出のために挑戦します。  
永年培ってきた圧延・加工技術のさらなる研鑽と品質の向上に努めると共に、  
世界のお客さまの新たなニーズにお応えし、輝く未来を切り拓きます。

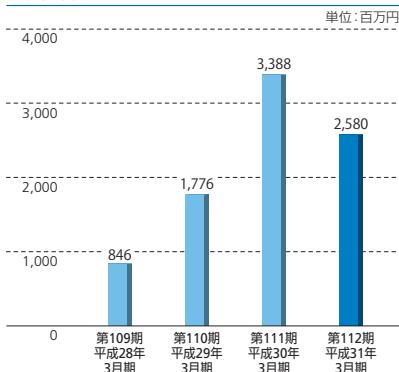
取締役社長 下川 康志

## ◆ 財務ハイライト(連結)

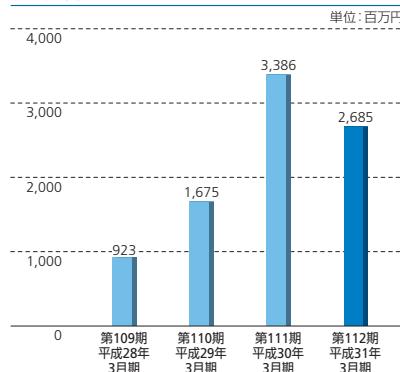
### 売上高



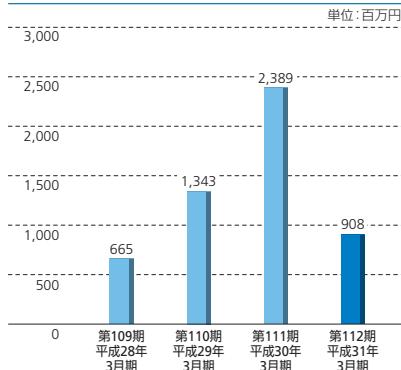
### 営業利益



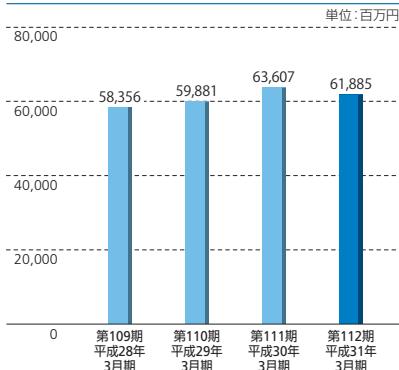
### 経常利益



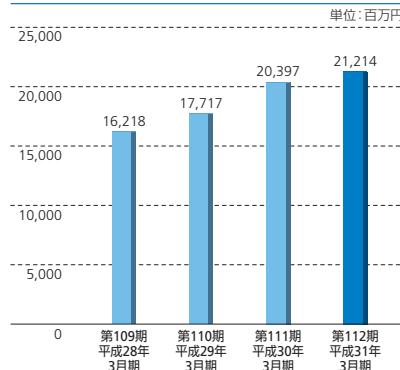
### 親会社株主に帰属する当期純利益



### 総資産



### 純資産



## ▶ 当期の経営成績と業績について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当連結会計年度のわが国経済は、好調な企業収益を背景とした雇用・所得環境の改善や設備投資の増加などに支えられ、引き続き概ね堅調に推移しました。海外におきましては、米国では財政支出の拡大や減税効果による個人消費並びに設備投資の拡大などにより回復基調が継続しましたが、中国では設備投資や個人消費が鈍化するなど成長の減速が見られました。

ステンレス業界におきましては、底堅い景気推移を背景に、建設関連需要や製造業向けなど、足下の堅調な需要は継続しておりますが、引き続き海外メーカーの能力増強などによる供給過剰や中国の景気減速による需要減退の影響などが懸念されます。

このような状況のもと、当社グループは、主資材の安定調達、生産効率の改善に引き続き取り組むと共に、これらの努力では吸収しきれない副資材や物流、エネルギーコストの上昇に対して、販売価格の適時な是正に努めることなどにより収益の維持向上を行いました。さらに、当社グループの独自性を発揮した自動車用光モールド向けステンレスや自動車用高精度異形鋼などの成長製品の増産増販対応を行うと共に、多種多様な素材を複合成形する「マルチ&ハイブリッドマテリアル」製品、最終製品の形状に近い複雑な成形を行う「ニアネットシェイプ」製品及び最終製品に要求される性能を素材で実現する「ニアネットパフォーマンス」製品を供給できるメーカーへのシフトに向け、新技術・新製品の開発に注力してまいりました。

この結果、当連結会計年度の連結業績につきましては、売上高は前期と比べ9億3百万円(1.8%)増収の492億9千1百万円となりました。損益面につきましては、営業利益は原材料価格と販売価格のタイムラグによるマージン率の縮小などで、前期と比べ8億7百万円減益の25億8千万円、経常利益は7億1百万円減益の26億8千5百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、退職給付制度の変更による特別損失の計上などで、14億8千万円減益の9億8百万円となりました。

## ▶ 第112期の利益配当について

当期の期末配当に関しましては、当期の業績、今後の動向を勘案し、1株につき30円とさせていただきます。株主の皆様におかれましてはご理解賜りますようお願い申し上げます。

## ▶ 今後に向けての取り組み

当社グループは、平成29年度から3カ年の第10次中期経営計画二年目である当期第112期を終え、最終年度と

なる第113期を迎えました。今期においては、更なる成長に繋げていくために、考え方や行動を「点」から「面」へと領域を広げ、更には立体的に掘り下げていく「球」へと展開し、相手先の事業や製品、機能の全体像を把握することで、情報や関係を深め、集中して行動することにより、更なる成長を実現するよう努めると共に、引き続き以下の課題に対処してまいります。

- 1) パートナーとの連携による高収益事業の創出  
自動車用光モールド向けステンレスや自動車用高精度異形鋼の増産対応や生産性向上による成長市場での拡販、自動車用小径厚肉管や極薄電磁鋼帯の高効率モーター用途などでの新事業の創出を加速させてまいります。
- 2) 事業の変革と強化を担う人材の育成と成長  
事業を支え礎となる人員の採用、能力開発や技能伝承の促進などにより、新たな事業の創出を担う人材の確保及び育成を推進してまいります。
- 3) 成長市場を機敏に捉えたグローバル展開  
タイ、マレーシアのコイルセンター機能を強化するとともに、インド市場へのステンレス拡販なども見据え、成長市場を捕捉してまいります。
- 4) グループの連携強化による総合力の発揮  
グループ全体の更なる収益向上体制を構築することで、グループ総合力を向上させてまいります。

当社グループを取り巻く環境は厳しい状況が続いておりますが、これらの課題を実行・実現し、揺るぎない収益基盤の確立を目指し活動してまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ▶ 次期の見通し

わが国経済は、雇用・所得環境は足下は改善されているものの、外需の減速や設備投資の伸びの鈍化などが懸念されます。海外におきましては、保護主義的な通商政策や英国のEU離脱問題など、世界経済に影響を及ぼしかねない不安定要素により、先行き不透明な状況が続くことが予想されます。また、為替相場の変動や資材、物流、エネルギーコストの動向も見通し難い状況にあり、当社を取り巻く環境は、引き続き厳しい環境が続くものと思われれます。

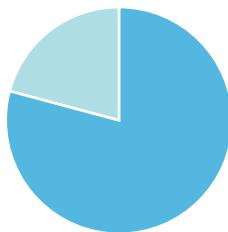
このような状況から、当社グループの次期の業績予想を合理的に算出することが困難なため、第113期の業績予想を差し控えております。

当社グループとしましては、常にお客様の事業環境や製品ニーズを適確に捉えた販売活動を進め、また原価低減・生産性向上等の取り組みを一層強化することで、更なる成長を実現するよう努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## セグメント別概況

### ◆みがき帯鋼事業

売上高比率  
**79.4%**



冷間圧延ステンレス鋼帯、みがき特殊帯鋼共に、上期は主要顧客である自動車関連の販売が堅調に推移しました。下期以降は、中国の景気減速の影響を受け、中国国内の自動車需要が減速しましたが、差別化製品の拡販などで販売影響を最小限に抑えました。

冷間圧延ステンレス鋼帯におきましては、ニッケル、クロム価格下落の影響で、原料コスト変動のタイムラグによるマージンが縮小しました。しかし、黒鉛電極や耐火物など副資材の原料高及びエネルギーコスト高の影響

を製品価格の適時是正に努めましたことで損益への影響を抑制しました。

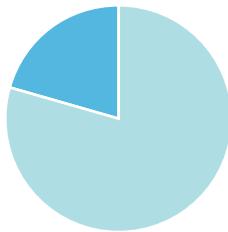
また、自動車用光モールド向け製品は、海外での品質評価を受け、欧米メーカー向け独自鋼種製品が拡大し数量を伸ばしました。電子部品関連では、スマートフォン向けやゲーム機向け振動部品、カメラ部品などの高精度ニーズで、板厚厳格、低磁性などの高精密仕様のパネ材が採用され、収益向上に寄与しました。

みがき特殊帯鋼につきましては、自動車関連では、中国市場におけるオートマチック車ミッションベアリング向け需要が減速しましたが、CASE (Connected (つながる)、Autonomous (自動運転)、Sharing (共同所有)、Electricity (電動化)) 関連用途では、車輪搭載のドライブシステム向けなどで新規受注が決定しております。

以上の結果、みがき帯鋼事業の売上高は、前期と比べ3億5千7百万円 (0.9%) 増収の391億7千2百万円となりました。

### ◆加工品事業

売上高比率  
**20.5%**



福島工場取扱製品におきましては、海外向け、特に中国の景気が減速した影響により自動車用部材及び産業機器の製造装置用部材が減販しましたが、国内インフラ整備向けとして高速道路の補修工事用部材に当社製品が採用されたことや、当社精密異形鋼の高精度、高品質が評価されたことにより、信頼性が必要とされる自動車用可変バルブ部品に採用されたことに加え、原材料高などのコスト増に対し製品価格を適時に是正したこともあり売上高は増加しました。

また、自動車駆動部品用高精度異形鋼は、従来製品より

厳格な管理が要求される新形状製品の生産が安定したことに加え、費用削減対策や人員配置の見直しを実施したことにより増収となりました。

岐阜工場取扱製品におきましては、船舶、建設機械の需要好調によりディーゼルエンジン向け燃料配管及び予熱装置用精密管の増販に加え、昨年度から量産を開始した自動車向け温度センサー用精密管、また、海外プラント用の計測機器向け保護管等が増販しました。

さらに、シームレスパイプからの切替え需要の取込みや、素材レベルからの品質管理体制等を評価していただいた結果、高品質が要求される飲料機器や医療機器の新規顧客に採用されたことで、増収となりました。

その他にも、グローバルな営業活動の一環として海外供給体制を構築し、日系ユーザーのタイ現地工場へNIPPON KINZOKU (THAILAND) CO., LTD. 経由で精密管の供給を開始しました。

以上の結果、加工品事業の売上高は、前期と比べ5億4千5百万円 (5.6%) 増収の101億1千9百万円となりました。

➤ 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期 平成31年3月31日 現在	前期 平成30年3月31日 現在	科目	当期 平成31年3月31日 現在	前期 平成30年3月31日 現在
<b>(資産の部)</b>	<b>61,885,574</b>	<b>63,607,237</b>	<b>(負債の部)</b>	<b>40,671,478</b>	<b>43,209,312</b>
流動資産	30,578,800	31,843,174	流動負債	24,431,481	27,186,121
現金及び預金	6,423,375	8,395,132	支払手形及び買掛金	12,060,216	14,168,777
受取手形及び売掛金	9,258,237	10,580,970	短期借入金	8,880,340	8,874,040
電子記録債権	4,656,515	3,294,427	リース債務	163,438	161,414
商品及び製品	4,636,249	4,069,417	未払法人税等	465,725	582,242
仕掛品	4,219,227	4,065,654	賞与引当金	437,125	448,103
原材料及び貯蔵品	1,064,152	1,162,929	返品調整引当金	51,817	54,439
その他	324,353	293,893	環境対策引当金	11,600	—
貸倒引当金	△ 3,310	△ 19,252	その他	2,361,217	2,897,104
固定資産	31,306,774	31,764,063	固定負債	16,239,996	16,023,191
有形固定資産	28,063,417	28,390,760	長期借入金	10,397,550	10,657,890
建物及び構築物	3,601,532	3,793,134	リース債務	311,039	403,937
機械装置及び運搬具	6,885,988	6,229,102	繰延税金負債	8,672	64,571
土地	16,258,039	16,240,597	再評価に係る繰延税金負債	3,041,263	3,041,263
建設仮勘定	751,597	1,574,860	退職給付に係る負債	2,402,572	1,752,170
その他	566,260	553,065	環境対策引当金	30,550	55,653
無形固定資産	75,193	76,846	資産除去債務	38,768	38,124
投資その他の資産	3,168,163	3,296,456	その他	9,580	9,580
投資有価証券	2,179,728	2,536,204	<b>(純資産の部)</b>	<b>21,214,096</b>	<b>20,397,924</b>
長期貸付金	12,485	15,202	株主資本	14,497,055	13,789,138
繰延税金資産	803,548	564,992	資本金	6,857,000	6,857,000
その他	213,007	222,025	資本剰余金	986,351	986,351
貸倒引当金	△ 40,606	△ 41,966	利益剰余金	6,663,725	5,955,789
資産合計	61,885,574	63,607,237	自己株式	△ 10,021	△ 10,002
			その他の包括利益累計額	6,717,040	6,608,786
			その他有価証券評価差額金	707,950	946,664
			土地再評価差額金	5,998,891	5,998,891
			為替換算調整勘定	139,679	175,297
			退職給付に係る調整累計額	△ 129,480	△ 512,067
			負債・純資産合計	61,885,574	63,607,237

(注1) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(注2) 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正」等を当期の期首から適用しており、前期末の連結貸借対照表残高は、当該会計基準等を適用して適用した後の金額となっております。

➤ 連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高	49,291,736	48,388,436
売上原価	41,262,740	39,662,841
売上総利益	8,028,996	8,725,594
販売費及び一般管理費	5,448,778	5,337,574
営業利益	2,580,217	3,388,019
営業外収益	256,438	253,844
受取利息及び配当金	78,732	64,493
受取賃貸料	77,105	107,066
スクラップ売却収入	53,016	54,902
その他	47,583	27,381
営業外費用	151,396	255,106
支払利息	98,921	107,114
賃貸費用	15,816	43,110
為替差損	14,172	74,000
その他	22,485	30,881
経常利益	2,685,259	3,386,756
特別利益	17,311	98,492
特別損失	1,396,179	196,590
税金等調整前当期純利益	1,306,390	3,288,658
法人税、住民税及び事業税	709,515	679,276
法人税等調整額	△ 311,898	219,771
親会社株主に帰属する当期純利益	908,773	2,389,610

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

➤ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	755,530	3,652,620
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,095,971	△ 1,437,994
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 621,087	△ 1,961,574
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 10,304	38,847
現金及び現金同等物の 増減額 (減少は△)	△ 1,971,832	291,898
現金及び現金同等物の 期首残高	8,325,953	8,034,054
現金及び現金同等物の 期末残高	6,354,120	8,325,953

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## ▶ 貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期	前期
	平成31年3月31日 現在	平成30年3月31日 現在
<b>(資産の部)</b>	52,630,785	54,285,367
流動資産	23,506,465	24,924,167
固定資産	29,124,319	29,361,200
有形固定資産	25,912,722	26,041,172
無形固定資産	48,622	60,969
投資その他の資産	3,162,974	3,259,057
資産合計	52,630,785	54,285,367
<b>(負債の部)</b>	34,461,086	36,298,299
流動負債	19,387,685	21,916,458
固定負債	15,073,400	14,381,840
<b>(純資産の部)</b>	18,169,699	17,987,068
株主資本	11,673,989	11,337,403
資本金	6,857,000	6,857,000
資本剰余金	986,351	986,351
利益剰余金	3,840,660	3,504,054
自己株式	△ 10,021	△ 10,002
評価・換算差額等	6,495,709	6,649,665
その他有価証券評価差額金	496,817	650,774
土地再評価差額金	5,998,891	5,998,891
負債・純資産合計	52,630,785	54,285,367

(注1) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(注2) 「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」等を当期の期首から適用しており、前期末の貸借対照表残高は、当該会計基準等を遡って適用した後の金額となっております。

## ▶ 損益計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高	41,249,280	38,956,487
売上原価	35,410,928	32,448,216
売上総利益	5,838,351	6,508,271
販売費及び一般管理費	4,124,947	3,972,577
営業利益	1,713,404	2,535,693
営業外収益	319,819	353,486
営業外費用	218,714	255,722
経常利益	1,814,509	2,633,458
特別利益	1,908	98,467
特別損失	1,012,259	194,214
税引前当期純利益	804,158	2,537,710
法人税、住民税及び事業税	475,580	400,400
法人税等調整額	△ 208,865	244,980
当期純利益	537,443	1,892,329

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

### “Multi & Hybrid Material” 製品 (PEEK樹脂/ステンレス鋼 複合パイプ)

当社では“Multi & Hybrid Material” 研究の一環として、生体物質、医療などの分析機器分野及びその配管などの部品開発を進めておりますが、このたび、ステンレス鋼溶接引抜き管と樹脂との複合パイプが完成し、分析機器メーカーでその性能が評価され、高速液体クロマトグラフィー（HPLC；High Performance Liquid Chromatography）用カラムに採用されました。

HPLC用カラムには、分析時間の短縮化を図るために100MPa以上の耐圧強度が必要になります。従来、外管はSUS316Lなど一般的なオーステナイトステンレス鋼のシームレスパイプが使用されてきましたが、当社独自の成分設計による高強度オーステナイトステンレス鋼（NKZ304NF）を使用することで、耐圧強度を大幅に高めることができ、複合パイプの小径、軽量化が可能になりました。更に溶接引抜き管のため、従来のシームレスパイプに比べて寸法精度が高く、製造コストも大幅に低減できるメリットがあります。



HPLC用カラム

内管の樹脂パイプには耐薬品性に優れるPEEK（polyetheretherketone；ポリエーテルエーテルケトン）樹脂を採用しました。特殊な熱処理によって耐薬品性が十分発揮できる製造工程を確立し、更に表面平滑性、清浄性を高め、分析精度への影響を極端に抑えることが可能になりました。

これら、外管と内管とを特殊加工により一体化させた後、株式会社巴製作所様においてHPLC用の空カラムに加工し、分析機器メーカーへ提供されます。

この複合パイプをHPLC用カラムに用いることで、高速かつ高精度な分析が可能になり、更に環境、食品、半導体分野まで広い市場に適用が期待されます。当社では、この複合パイプのコストメリットや納期の柔軟性を訴求し、量産化を図るとともに、今後も、他分野での商品ニーズを機敏に捉えながら、他素材との新たな複合材の開発などにスピード感を持って取り組んでまいります。

## 『最新鋭異形圧延機』の増設

福島工場に昨年新たに設置された異形圧延機です。  
福島工場で製造している「自動車用高精度異形鋼」は、お客様から技術力・品質・コスト面などで高い評価を得ており、当社の主力製品となっております。

当社第10次中期経営計画においても、成長製品拡販の一環として、重点製品と位置付けており、これまでも、焼鈍ラインの増設や、工場の建屋の増築・レイアウトの見直しなど、生産能力の増強を図ってまいりましたが、さらなる増産に向け、昨年5月、高精度な板厚制御が可能な最新鋭の異形圧延機を増設しました。

福島工場では、顧客の声を聴き、スピーディーに対応し、最善の商品・サービスを提供し続ける加工品事業を目指しており、今後も、お客様満足の向上に努めてまいります。



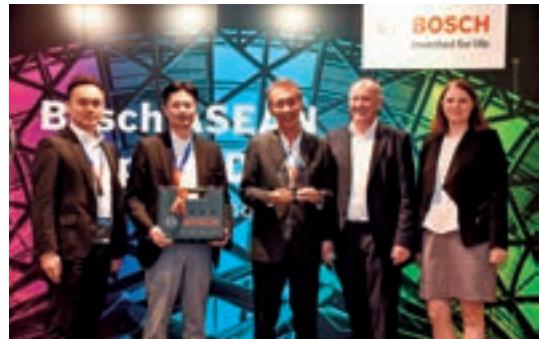
## 『Bosch ASEAN Supplier Award 2018』受賞

当社は、2019年3月12日にタイ王国のバンコクで開催されたボッシュ社主催の『Bosch Supplier Day 2019』の招待を受け、『Bosch ASEAN Supplier Award 2018』を受賞しました。

『Bosch Supplier Day 2019』は、アセアン域内で自動車／電動工具関係で納入するサプライヤーのうち、総合パフォーマンス（革新的な技術、品質とサービスの向上、コスト管理能力の向上で優秀さを示した会社）が評価された会社を招待・表彰するもので、今般、当社のQCDや技術対応力などが評価され、“ASEAN Supplier Award” に選ばれました。

当社では、ボッシュ社に自動車部品向け高精度異形鋼を2013年より本格的に納入を開始しており、2015年には増産対応などが評価され“Supplier Honor”の表彰も受けております。

今後も、お客様のご要望に応えるべく、設備の最適化や生産性向上を進め、生産能力アップを図ってまいります。



## ➡ 会社概要 (平成31年3月31日現在)

創 業	昭和5年11月10日
設 立	昭和14年12月2日
本 店 所 在 地	東京都板橋区舟渡四丁目10番1号
本 社 事 務 所	東京都港区芝五丁目30番7号 電話 (03) 5765-8111 (大代表)
資 本 金	68億5千7百万円
連結従業員数	882名
当社従業員数	572名

## ➡ 役員 (平成31年3月31日現在)

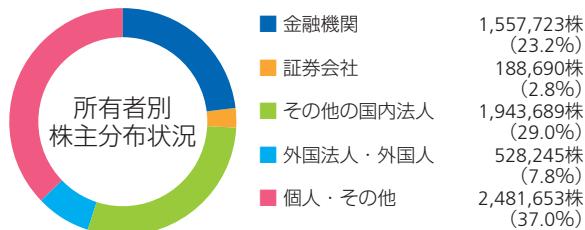
取締役会長	平石政伯	常務取締役	山下匡史
取締役社長 (代表取締役)	下川康志	社外取締役	小川和洋
取締役副社長	根本恵央	監 査 役 (常 勤)	白鳥栄次
常務取締役	大西敏夫	社外監査役	谷 学
常務取締役	原田喜弘	社外監査役	鶴岡通敏

## ➡ 株式の状況 (平成31年3月31日現在)

- ① 発行可能株式総数 24,000,000株
- ② 発行済株式総数 6,694,561株  
(自己株式5,439株を除く)
- ③ 株主数 4,917名  
(うち、単元株主数 4,478名)
- ④ 大株主

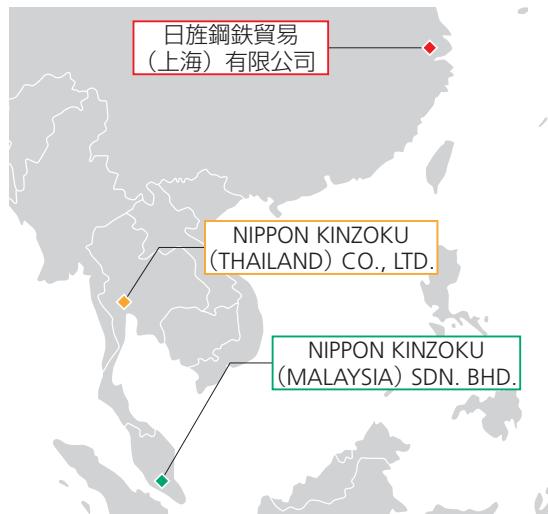
株 主 名	持株数	持株比率
	百株	%
新日鐵住金ステンレス株式会社	8,725	13.0
日本金属取引先持株会	4,928	7.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,791	5.6
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	3,787	5.6
JFE商事株式会社	2,820	4.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,883	2.8
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,665	2.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	1,639	2.4
株式会社みずほ銀行	1,000	1.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	914	1.3

(注) 持株比率は自己株式(5,439株)を控除して計算しております。



➡ 事業所 (平成31年3月31日現在)

- ◆ **本社事務所**  
東京都港区芝五丁目30番7号  
〒108-0014 電話 (03) 5765-8111 (大代表)
- ◆ **大阪支店**  
大阪府大阪市中央区淡路町三丁目6番3号 御堂筋MTRビル  
〒541-0047 電話 (06) 7711-6133 (代表)
- ◆ **名古屋営業所**  
愛知県名古屋市中区新栄町一丁目1番地 明治安田生命ビル  
〒460-0004 電話 (052) 962-6671 (代表)
- ◆ **板橋工場**  
東京都板橋区舟渡四丁目10番1号  
〒174-8560 電話 (03) 3968-6300 (代表)
- ◆ **岐阜工場**  
岐阜県可児市姫ヶ丘二丁目24番地  
〒509-0249 電話 (0574) 63-1071 (代表)
- ◆ **福島工場**  
福島県白河市東金子字鹿島1番地  
〒961-0303 電話 (0248) 34-2961 (代表)



グループ会社

(日本)

- ◆ 日金スチール株式会社
- ◆ 日金精整テクニクス株式会社
- ◆ 日金電磁工業株式会社
- ◆ 株式会社セフ

(海外)

- ◆ 日旌鋼鉄貿易 (上海) 有限公司
- ◆ NIPPON KINZOKU (THAILAND) CO., LTD.
- ◆ NIPPON KINZOKU (MALAYSIA) SDN. BHD.

## ➤ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年  
定時株主総会 毎年6月  
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先	お取引の証券会社等になります。	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
各種手続取扱店 (住所変更、株主 配当金受取り方法 の変更等)		みずほ証券 本店及び全国各支店 フラネットブース (みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行 本店及び全国各支店
未払配当金の お支払	みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 みずほ銀行 本店及び全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります。)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

単元株式数 100株

公告方法 当社のホームページ (<https://www.nipponkinzoku.co.jp>) に掲載します。  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

上場取引所 東京証券取引所市場第1部

## ➤ ホームページのご案内



<https://www.nipponkinzoku.co.jp>

## ➤ 主要製品

事業	主要製品
みがき帯鋼	冷間圧延ステンレス鋼帯、みがき特殊帯鋼、マグネシウム合金帯
加工品	型钢・精密異形鋼等ロール成形品、ステンレス精密細管、電磁製品



# 日本金属株式会社

本社事務所 〒108-0014 東京都港区芝五丁目30番7号  
TEL. (03) 5765-8111 (大代表) FAX. (03) 5765-8116

<https://www.nipponkinzoku.co.jp>